

2023年

# 市長新春トーク

謹賀新年

近江八幡市長 小西理



撮影場所／禧長（永原町元）

## 未来に向けて、 基盤を作る1年に

聞き手／近江八幡市広報番組「テレはち」  
キャスター 片山むつみ

——市民の皆さんに新年のごあいさつをお願いします。  
市長 市民の皆さん、新年明けましておめでとうございます。昨年はコロナ禍が続いたり、ロシアがウクライナに侵攻したりと明るい話題ばかりではなかったと思います。今年は未来に向けて明るい年になるように、そしてしっかりとした将来の基盤を作る1年になるように、頑張ってください。ですので、よろしく願います。

### 01 相乗効果を生んだ ふるさと観光券

——まずは昨年の取り組みについてお話をお聞きします。  
今後の経済活動に向けての取り組みの1つとして、ふるさと観光券を販売しましたね。

市長 ふるさと観光券については、コロナ禍で1番落ち込んでいたのがやはり観光事業ということで、優先的に取り組まなければならぬという思いがありました。

そのためには、まず市民の皆さんに、本市にはおいしいものや歴史的な資産、豊かな自然があり、こんなに素敵なおまちなんだと知ってもらうことが大事だと考えました。市民の皆さんが感じた魅力を友人や親戚にも話してもらおうことでできる広がりによって、新たな観光客の獲得

切だと思っています。それを大きな柱として、本市のさまざまな工業製品やおいしい農産物、食材と結びつき、新たな特産物や観光資源が生まれるなど、ビエンナーレは単なる芸術祭としてだけではなく、未来につながるタマゴになると思っています。次の機会にも皆さんに、ぜひビエンナーレを体感いただきたいです。

### 02 文化・芸術は 未来へのタマゴ

——昨年はBIWAKOビエンナーレが開催されましたが、市長もさまざまな会場をご覧になられていかがでしたか。  
市長 ビエンナーレは今回で10回目を迎えました。改めて非常にクリエイティブの高い芸術祭で、素晴らしいと思いました。この後ろにある屏風も作品のひとつです。本市には古いまち並みや町屋が残っていて、日本でもとても珍しいところ。それと現代アートがすぐくマッチして、得も言われぬものを作り出していて、魅力的な空間を演出してくれています。この禧長もそうですが、本市の貴重な財産ですね。

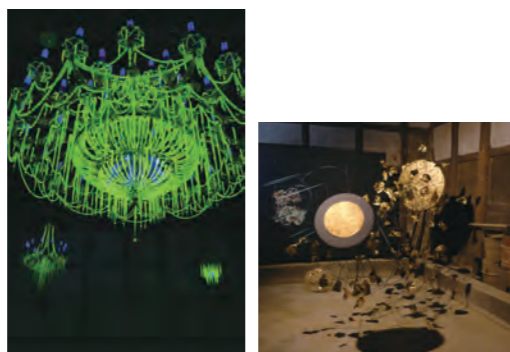
モノがありふれた世界で、人が成長し未来を作っていくためには、文化・芸術が大

### 04 みんなの 健康を守る砦として

——総合医療センターでは、昨年7月に手術支援ロボットを導入しましたね。  
市長 ダビンチといいますが、小さな穴から器具を入れ、画像を見ながら手術できる機械です。総合医療センターは地域中核病院として、国から高度な医療を提供する病院に位置づけられています。この手術支援ロボットのほか、周産期医療などでも、私たちは市民の皆さんをはじめ東近江圏域の皆さんに、最先端で最良の医療を提供していかなければいけないと思っています。将来に向けて、市民の皆さんの健康をしっかり守り、楽しい毎日を送っていただけるよう頑張っていきたいと思っています。

### 03 子育て世代にゆとりを 実施しましたね。

——子育て支援では、学校給食費の支援も実施しましたね。  
市長 小・中学生全員の給食費を無償にもしたかったのですが、数ある子育て支援の1つとして、今回は第2子を半額、第3子以降を無償とすることにしました。子育てをしている若い世代の可処分所得が減っているなか、いかにその世代が子育てしやすいような環境を作ること、また経済的にも



2022年のテーマは起源～ORIGIN～。旧市街地と沖島で、来場者は歴史ある建物と現代アートの融合を楽しみました。



手術支援ロボット「ダビンチ xi」は、患者さんへの身体的負担が少なく、複雑な手術を可能にした最新型のロボットで、3つの機器から構成されています。





令和3年度から活躍中の移動図書館車「はちっこぶつ号」。子どもたちに絵本を届けるだけでなく、保護者同士の交流の場にもなっています。来年度にはミニ版がデビューします。



ミニ版イメージ



ふるさと納税寄附金で実施する「アートの広げる子どもの未来プロジェクト事業」。昨年は市内の6年生約790人が、Osaka Shion Wind Orchestraのコンサートを楽しました。

## 今年の取り組み・展望

### 05 クリエイティブな教育を

——令和5年の取り組みや展望についてお聞きします。  
市長はいつも子どもたちに本物の文化や芸術に触れる機会を増やしたいとおっしゃっていますが、どのような事業がありますか。  
市長 1つは移動図書館車ですね。特に幼少期の多感な子どもたちに、絵本など

いろいろな本に触れてほしいという思いで取り組んでいる事業です。段階的に市内の就学前施設へ巡回できるよう、軽自動車を利用したミニ移動図書館車も、年度内に導入します。  
また昨年11月には、市内の小学校12校の6年生全員を対象に、コンサートを開きました。一流のウィンドオーケストラが奏でる音楽を鑑賞してもらう試みで、今年からは4・5年生にも広げていきたいと思っています。

教育は時代とともに変化します。明治期には軍人教育が根底にあったし、高度経済成長期は労働者をどうやって育てていくかが使命でした。これからはクリエイ

### 06 すべての子どもにしっかりと医療を

——子ども医療費の助成については、年々助成対象を拡充していますね。

イティブな教育が重視されます。自分の思いや考え、感性、感情を表現し、それを人に伝えて、成果に結びつけていくというような人が育つといいなと思います。そのなかで文化・芸術というのは大きな素養の1つだと思いますし、力を入れていきたいです。

市長 子育てするうえで1番の基本は、しっかりと医療制度です。経済的に厳しいご家庭も多いなかで、ためらうことなく治療を受けられる環境が重要です。子どもの頃の健康というのは、大人へと成長していくうえでとても大切ですし、スポーツや勉強に励むにしても、健康第一ですから。歯医者に定期的に通うようになったことで、虫歯の率が減ったとも聞きました。すべての子どもたちに分け隔てなく医療の恩恵を受けて欲しいと思いますし、高校生の年齢まではしっかりと行政で支援していきたいと思っています。

### 07 いつでも・どこでも・誰にでも

——行政手続きのデジタル化も進み、大変便利になりましたね。  
市長 今までだったら窓口が開いている時間に市役所まで来なければならなかったものが、コンビニで済んだり、自分のスマホやパソコンで、いつでもどこ

でも、さまざまな手続きができるようになることが理想ですね。

また、デジタル化は手段であって目的ではありません。単にデジタル化するのはなく、一人ひとりに合った、それぞれの立場を考えた手続き方法を選択ができることが、IT技術の強みだと思います。

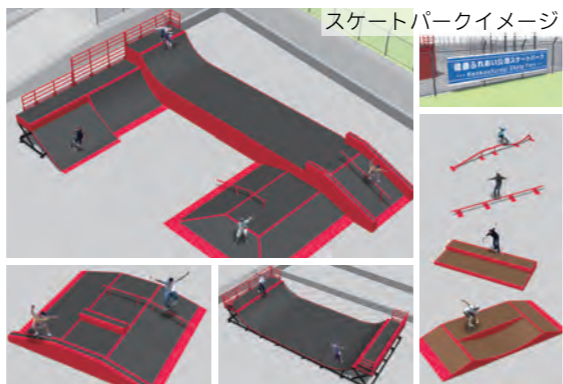
そのためには、皆さんが何に困っている、どういうことが必要なのかという個々の状況を行政側が知っておかなけれ

### 08 充実した生活をスポーツとともに

——スポーツ施設の整備についてお聞きします。

市長 2025年に国スポ・障スポが滋賀県で開催され、本市でもいくつかの競技が行われます。これからは運動公園野球場の整備や、あづちマリエート体育館の改修を進めていきます。昨年完成した健康ふれあい公園では、スケートパークの建設を進めています。

スポーツは市民の皆さんにとって、ご自身の生きがいや楽しみになるものだと思います。昨年はサッカー日本代表がワールドカップで健闘され、今年7月には福岡で世界水泳が開催されます。本市出身の乾友紀子さんも出場を目指して頑張っておられます。スポーツは私たちに勇気や力を与えてくれるものですし、人生の豊かさを高めてくれるものでもあります。だからこそ、スポーツ施設はしっかりと整備していきたいと思っています。



スケートパークには難易度が異なるさまざまなエリアを設け、初心者から上級者まで楽しめます。

——最後に、市長ご自身の今年の抱負と、市民の皆さんへのメッセージをお願いします。

市長 今年の抱負は、明るく・全力で、タフになく市政運営に取り組んでまいります。

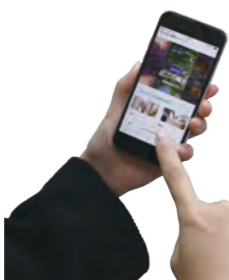
本市にはさまざまな課題があります。空家対策や農業、道路もまだまだこれから整備しなければいけないと考えています。多くの課題があるなかで、市民の皆さんと力を合わせ、笑顔で明るい近江八幡市を一緒につくっていきたくと思っています。今年もどうぞよろしくお願いします。

※この特集記事は、ZTVで1月1日、7日に放送する市広報番組「テレはち」の内容を基に編集しています。

本市ではデジタル化を進めています。



オンライン申請の方法は市ホームページで紹介しています。HP 19344



くらしの手続きガイドを昨年から開始しました。簡単な質問に答えることで、転入、転出などで必要な手続きや書類が確認できます。ぜひご活用ください。HP 23520

市民の皆さんと  
笑顔で明るい「近江八幡市」へ